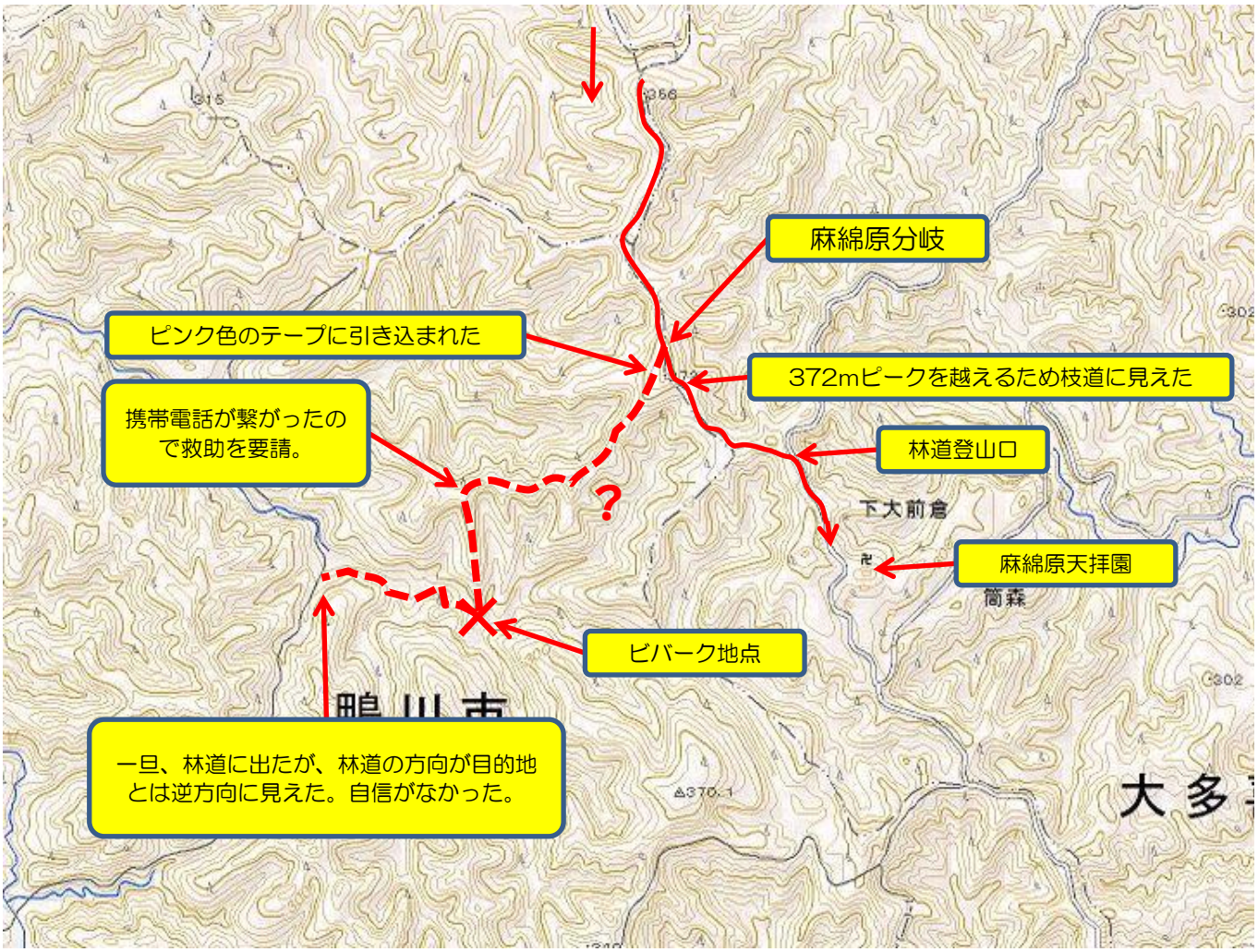
麻綿原高原道迷い（2003年11月）

中高年30人の遭難。迷った道にはピンク色の杭がありメインルートに見えた。一旦は林道に出たが、自信が無く迷った道を戻り、ビバークを決断。翌日、携帯電話が繋がった地点で救助された。



解説

中高年30人の大型遭難。30人はツアーパーティーでリーダー役は3人いた。遭難の原因は、麻綿原分岐から南西の尾根に迷って進んでしまったためで、正しい道は南東へ進まなければならなかった。

麻綿原分岐からビバーク地点まで20分で進み、一旦は林道に出たため目的地の清澄山へ行くことも考えたが、林道が清澄山に辿り着ける自信がなかった。

来た道を戻り、ビバーク地点に着いた時には18時前になっていた。ライトを持っていないメンバーもいたため、ビバークを決断。焚火をして一夜を過ごし、翌日携帯電話が繋がった尾根から救助を求めた。下山後に多くの報道陣が押し寄せ、容赦ない攻撃が繰り返された。

筆者の方がその後検証のため現地を訪れたが、ほぼ同じように道迷いをした。間違った道は①直進。②幅広く明確に続いている。（直進する方が自然に見えた。）③間違えた道のすぐ前方に石仏が鎮座していた。④正しい道は枝道にしか見えない。

里山は地形が複雑で、このような落とし穴は全国各地にある。注意したい。